

No.
09

ELPA Vision

ELPA 設立
20 周年

ChatGPT 時代の英語教育への一考察

工藤洋路（玉川大学教授・ELPA 理事）

「実用数学重視」は正しいか

堤晋介（リーディングリテラシー研究会副代表・ELPA アドバイザー）

2022 年度 ELPA オンラインセミナー報告

特定非営利活動法人(NPO)
英語運用能力評価協会
ELPA Association for
English Language
Proficiency Assessment

〒162-0806 東京都新宿区榎町 39-3 神楽坂法曹ビル 501

Tel: 03-3528-9891 Fax: 03-3528-9892

e-mail: elpa@english-assessment.org URL: <https://english-assessment.org/>

英語 4 技能プレイスメントテスト E-Vision モニターテスト受験校募集

英語 4 技能プレイスメントテスト E-Vision とは

高大接続改革の目標、「急激な社会変化の中でも、未来の創り手となるために必要な資質・能力を備え、自立して社会に貢献する人材を育成すること」に即して、2022 年から実施されている高等学校の学習指導要領「英語コミュニケーション」「論理・表現」でも、英語 4 技能評価が求められます。

ELPA から 2024 年発売予定の「英語 4 技能プレイスメントテスト E-Vision」では、「リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング」の 4 技能の力をウェブサイト上のテストでコンピュータ、タブレット、スマートフォンにより測ることができ、「主体的・能動的な学習」で必要となる、総合的な英語力がどの程度身についているかが把握できます。

特に大学入学前の英語のクラス分けテストでご利用いただく際にも集団による一斉受験の必要がなく、コンディションが整っていれば自宅などでも受験していただけます。また入学前でまだ学生の手元にコンピュータが用意できていないという場合にも手持ちのタブレット、スマートフォンで受験可能です。

高等学校、高等専門学校、短期大学・大学まで広くご受験いただき、グローバル化が進む社会に対応できる英語力を身につけるのに役立てていただければ幸いです。

■英語 4 技能プレイスメントテスト E-Vision 問題概要■

◇仕様：コンピュータ、タブレット、スマートフォンを使用したウェブサイト上の個別受験型テスト	<内容>
◇出題レベル：高校英語総合レベル	1：リスニング（多肢選択）
◇試験時間：リスニング 20 問 25 分	2：リーディング（多肢選択）
リーディング 20 問 25 分	3：スピーキングテスト（文再現・整序／自由産出問題出題可能性あり）
スピーキング 20 問 10 分	4：ライティングテスト（文再現・整序／自由産出問題出題可能性あり）
ライティング 20 問 10 分	
合計 約 70 分（※練習問題、自由産出問題除く）	

モニターテスト受験校募集中

現在、2023 年 11 月までに「英語 4 技能プレイスメントテスト E-Vision」のモニターテストを実施していただける学校を募集中です。（一定数に達したら締め切りといたします。ご了承ください。）

■実施概要■

・受験料：無料
・時期：2023 年 11 月まで（※ご相談ください。）
・対象：高等学校／高等専門学校／短期大学・大学 等
・人数：40 名以上
・テスト終了後、引き続きアンケートに答えていただきます。所要時間は約 10 分です。
・受験者名簿を事前にデータでいただきます。
・採点データは、モニターテスト実施後 2 週間程度でお届けします。なお、詳細なスコアレポート等は提供いたしません。

※個人情報、テストの解答およびアンケートのデータに関しては、調査・研究及びデータ分析の目的以外には一切使用いたしません。

特定非営利活動法人 英語運用能力評価協会（ELPA）

〒162-0806 東京都新宿区榎町 39-3-501 Tel.03-3528-9891/Fax.03-3528-9892

e-mail: elpa@english-assessment.org

URL: <https://english-assessment.org/>

ELPA Association for
English Language
Proficiency Assessment

ChatGPT 時代の英語教育への一考察

玉川大学教授・ELPA 理事 工藤洋路



この半年、教育界、特に大学教育は ChatGPT なしに語ることはできない。2023 年度の授業開始に向けて、ChatGPT を始めとする生成 AI の使用ガイドラインを策定し、学生に通知した大学は数多い。教育界だけでなく、どの業界においても、生成 AI は目下話題の中心である。今の状況は ChatGPT に過度に振り回されている印象もあるが、それだけこの生成 AI のインパクトが強いということだろう。なぜこれだけ話題になっているのだろうか。それは、当然のことながら、生成 AI が、その名の通り内容を生成してアウトプットしてくれる点にある。言語間の変換してくれる機械翻訳では、入力する内容はユーザー側が構築して機械にインプットする必要がある。一方、生成 AI は、適切なプロンプトを作って入力する必要があるにせよ、短いコマンドで、多くのまとまった内容をアウトプットしてくれる。ただ、ChatGPT がこれだけユーザーが増えているのは単に内容を生成してくれるだけではないと考えられる。LINE を始めとする SNS での written interaction に慣れている我々は、知らずのうちに、written であっても即時的な（online 型の）interaction を求める体質になっている。相手側に「既読」がなかなか付かなかったり、付いてもレスがすぐになかったりすると、無意識的にストレスを感じている。ChatGPT は（ブラウザに音声読み上げの拡張機能を入れない限りは）written interaction だが、即時的にプロンプトに対する返事が来る。written interaction を半即時的に SNS で行う時代を生きる我々にとって ChatGPT は、interaction の相手として最適なパートナーの一人になってしまったのかもしれない。現に私も、ChatGPT に何度も類似したプロンプトをインプットする際に、「また同じことを聞いて申し訳ないけれど…」のような無意味な（？）枕詞を付けてしまうことがあるのは、ChatGPT を interaction partner と無意識に認めてしまっているのかもしれない。

では、これからの英語教育はどうなるだろうか。以前から AI の進化により消えてなくなる職業リストなるものが公開されてきた。ChatGPT を始めとする生成 AI の台頭によって、このリストも上書きされてきているが、最近公開されたものでは、英語教師が 2 位になっているものがあった。ただ、よくよく見てみると、消滅する職業ではなく、「AI に影響を受ける職業」として英語教師が上位にランキングされている。では、どのような影響があるだろうか。今後さらに AI を活用した英語によるコミュニケーションが増えていくとすれば、その方法に習熟するトレーニングを英語の授業でも実施する必要がある。はるか昔に辞書が実用化された際に、辞書を活用して英文を読むトレーニングが開始されたことと同じく、AI を活用しながら英語を学ぶあるいは使用する訓練をスタートすることになる。先に述べたとおり、生成 AI は内容を構築してくれるツールであるが、ChatGPT を始めとする生成 AI の現時点の弱点の 1 つは、必ずしも内容的に正しいアウトプットしてくれるわけではない点である。英文としては文法的に間違った文をアウトプットすることは考えられないため、生成 AI を使う場合は、言語的な正確性ではなく内容の適切性にフォーカスすることになる。例えば、自由英作文の課題を英語の授業で行うとする。同じプロンプトでも毎回異なる英文がアウトプットがされるという ChatGPT の特性を利用して、複数のアウトプットを比較して、自身が伝えたいものに最も近いものを選ぶという活動が可能になる。これは内容が適切かどうかを吟味するためのスキルを育成する活動と言える。自由英作文だけではなく、文レベルのトレーニングである和文英訳であっても、生成 AI を使えば、複数の英文候補をアウトプットしてくれる（機械翻訳でもしてくれるが）。1 つの意味や内容を表現する際に、文レベルでもどのような表現方法が「適切か」を判断するトレーニングは生成 AI を使って行うことが可能である。

「適切さ」と言えば、小・中・高等学校の現行の学習指導要領では、評価の 3 観点が示されているが、その中の「思考・判断・表現」の観点が、「適切さ」に関わるとされている。もう 1 つの観点である「知識・技能」が言語面の正確さを評価する観点であり、「思考・判断・表現」は、コミュニケーションの「目的・場面・状況」に応じて、適切な内容を表現しているかどうかの評価のポイントと

(2) 次の英文は、ある生徒が文書作成ソフトを使って、スピーチコンテスト（speech contest）についてスミス先生（Mr. Smith）宛てに書いた【メール文の下書きの一部】です。送信する前に友達に相談したところ、友達から【コメント】をもらいました。【コメント】にしたがって、下線部を書き直さない。

【メール文の下書きの一部】

Dear Mr. Smith,

How are you?

We have a speech contest next Friday.
The speech contest starts at 10:00.
You have to come to the speech contest.

【コメント】

この英文は、依頼する表現に修正したほうがよいと思う。



なる。2023 年 4 月に中学 3 年生を対象に実施された「令和 5 年度全国学力・学習状況調査」では、書くことの領域において、図のような、文レベルの適切さを判断させる問題が出題されている。1 文を書かせるだけのために、わざわざこのような大掛かりな問題を出題することについて批判的な意見もあるかもしれない。しかしながら、先に述べたように、生成 AI などのツールを使いながら学習をしたりコミュニケーションをしたりする時代になってきていることを踏まえれば、生成 AI が出力した英文を適切さという観点で吟味するスキルを育成することは大切である。このテスト問題は、すでに提示された正確な文に対して、内容面や表現面の適切さを考えるという意味で、これらからの英語教育へのヒントが隠れている問題であると言える。

(くどう・ようじ)

「実用数学重視」は正しいか

日本語リーディングリテラシー研究会副代表・ELPA アドバイザー 堤晋介



文化祭でたこ焼きの模擬店を出そうということになった。1 皿あたりのコストは 160 円で、その他にたこ焼き器レンタル代が 6000 円かかる。1 皿 200 円なら 200 皿売れそうだが、1 皿あたりの価格を 50 円上げるごとに売り上げ数が 50 皿減ると予測される。このような条件の下、たこ焼きの価格設定は、売り上げと利益にどう影響するのだろうか。2021 年度の共通テスト追試「数学 I・数学 A」の内容である。共通テストは、1990 年度から 2020 年度まで行われた「センター試験」に代わって導入された大学入学試験制度である。

数学に関して文科省は「大学入学共通テスト実施方針」において「数学を活用した問題解決に向けて構想・見通しを立てることに関わる能力の評価を重視する」旨位置付け、実用重視路線を謳った。また、「2020 年度大学入試改革！新テストのすべてがわかる本」（教育開発研究所）は「記述式の導入によって、様々な事象と数式、図表やグラフ等の数学的な表現を関連付けること（事象を基に数学的な表現を行ったり、数学的な表現を事象に戻してその意味を考察したりすることを含む）」と分析している。上記の設問からもわかる通り、文章題を読んでそれを解決するための確かな数学ツールは何なのかが問われる問題となっている。

「センター試験」と「共通テスト」における数学の出題方針の違いをやや乱暴に整理すると次のように言えるかもしれない。前者は問題を読んだ瞬間に「どの分野からの出題なのか」がわかるようになっている。解答者ははじめから「これは 2 次方程式、これは微分・積分の問題だな」と理解したうえで解き始める。料理にたとえるならば、どのメニューを作るかはすぐにわかり、「さあ、作れるかな？」と問われているようなものだ。その料理を作るなら、このあたりの道具を使うだろう、とすぐにあたりがつけられる。そのあたりの情報は剥き出しなのだ。

それに対して後者は、目の前にある問題を解くのにどの道具を使えば良いのかから考えることになる。「包丁なのか、カッターナイフなのか、のこぎりなのか」というスタートラインから問いが始まっている。数式を解く手前に、外壁が数枚立ちはだかっている、とでも言えようか。まずその外壁を取っ払うところから始めることになる。

出題方針のこのような改定を肯定的にとらえる人は多いかもしれない。たとえば、伊藤祐一郎鹿児島県知事（当時）は 2015 年 8 月、次のように発言したそうだ。「高校教育で女子にサイン、コサイン、タンジェントを教えて何になるのか」「それよりも少し社会の事象とか植物の花や草の名前を教えた方がいい」。女性に限定して発言している点は論外としても、「サイン、コサイン、タンジェントを学生時代に学んでも、社会に出てから使うことなんてない。従って、不必要である」という意見に対しては、賛成する人が少なくなかったのかもしれない。

数学は、論理的思考をもって、より高度に抽象的な世界へと挑戦する手助けになる。前提となる情報や知見がたとえ外部から与えられなくとも、学習者自身が自らの探求や思索によって進んでいける部分が大きい。（宇宙において無から有が発生したように、「知的ビッグバン」が命題と証明を幾度も繰り返し、今日に至っている。）

たとえば、数学の一分野に「ベクトル」がある。ベクトルが私たちに示してくれるのは「図形と数式で考えることができる」ということである。図形と数式という二つの宇宙が、ある日突然鮮やかに連結される。ここには学習者を感動させるに十分な力があると思う。このことが学習者に与える影響を考えると、「実用的か否か」という価値基準で数学はいらないと判断するのはとてつもなく勿体無いように思えるのである。「実用重視」が大義名分となり、そのもとに知的感動の機会が遠のくことを危惧するのは、私のような一部の人間だけなのだろうか。

(つつみ・しんすけ)

ELPA 設立 20 周年

ELPA は 2023 年 4 月、設立 20 周年を迎えました。アドバイザーの先生方からいただいたお祝いメッセージの一部をご紹介します。（順不同・所属肩書きはご本人記載のまま）

ELPA 設立前のこと

清泉女学院短期大学 中村洋一

大友賢二先生から学内の内線電話で、「東京の出版社の方が、英語のテストのことで聞きたいことがあると言って、近々、こちらを訪ねてくることになっているんだけど、一緒に話を聞いてみないかね」と連絡をいただいたのは、ELPA 設立の 1 ～ 2 年前、たしか、2001 年のことだったと思う。もう 20 年以上も前のことなので、正確なことは覚えていないけれど、古典的テスト理論や、項目応答理論とコンピュータ利用のテストのことなど、結構長い時間、夢中になって話し続けたことははっきり覚えている。大友先生の研究室から、食事の場所に移っても、まだ話していた記憶がある。

1996 年に外国語教育評価学会を設立、1999 年にアジアで初めての Language Testing Research Colloquium をつくば市で開催、2001 年に外国語教育評価学会を日本言語テスト学会と改称、といった流れの中にあったけれど、当時はまだ、日本での言語テスト研究は始まったばかりで、なかなか広がりが見えない時だった。英語のテストのことを熱心に聞いてくれて、議論するなんていうことは、本当に珍しいことで、話したいことがいっぱいあった。

2000 年には、TOEFL の CBT が始まったけれど、正直なことを言うと、項目応答理論を適用した言語テストとか、コンピュータ適応型言語テストの実現は、日本ではまだまだ先のことだろうと思っていた。夢中になって話していた内容も、どちらかという実現可能性に乏しく、「そんなに簡単に、すぐには実現しませんよ」と高を括った、上から目線のムセキニンなものだった。

しかし、現事務局長の白戸さんを中心に、コンピュータにめっぽう強い人、問題項目をさっと作ってしまう人といった優れたメンバーのプロジェクトチームにより、項目応答理論によるテストづくりや CBT の準備が着実に進められ、ELPA 設立の動きも、予想を遥かに上回る速さで進んでいった。劇的な動きに少し惑っているうちに、棚からぼた餅で、テスト理論の普及を目指すなんていう大義名分を立てて、『テストで言語能力は測れるか』という拙著も出版していただいた。

ああ、あれから 20 年っ！ ICT の教育利用は、日本でも飛躍的に発展し、言語テストも大幅に進化してきた。ELPA は、その牽引の先駆者のひとつであり、中心的な役割を果たしてきた。ELPA 設立の前の大きな胎動を具現化した多くの方々の献身的な働きに感謝いたします。また、設立後 20 年の間、弛まずに日本の教育と向き合い、様々な活動にとり組み、ELPA を育ててこられた皆様の貢献に喝采を送ります。

ELPA 設立 20 周年、おめでとうございます。これからますますの発展を信じています。



立命館大学 食マネジメント学部 清水裕子

設立 20 周年、おめでとうございます。
私は測定や評価に関わるツールは教育現場の主役ではなく縁の下の力持ちであるべきだという思いで英語教育に携わって参りました。しかし、ここ数年で加速度が急に増し、テストをめぐる景色が変わりつつあるようで、不安にも感じております。そんな中、ELPA には、時代と共に歩むだけでなく、時代を的確に批判する眼も備えた活動を通して、常に教育界の＜助演賞＞を胸に輝かせていかれることを期待しております。

尚美学園大学 スポーツマネジメント学部 准教授 若山典生

ELPA 設立 20 周年、心からお祝い申し上げます。ELPA の理念として「コミュニケーションが円滑になる社会の実現に向けて「わが国の学校における英語教育の成果を客観的に調査・評価するテストを実施し、実践的で効率的な学習指導の提言を行う」こととあります。他の英語教育推進団体と違うのは英語と日本語の能力を車の両輪として考え、双方の能力をはかり、促進する姿勢を崩さないことにあると思います。ELPA のこれからの益々の発展を祈念してやみません。

京都大学・国際高等教育院 柳瀬陽介

20 周年おめでとうございます。
折しも AI で時代が大きく変わろうとしています。
ELPA が特定非営利活動法人としてできる活動をますます充実させることを願っております。

広島文教大学 教授 八島等

ELPA が設立 20 周年を迎えられたこと、誠におめでとうございます。
これからも、まずは 30 周年に向けて、ますますのご発展をお祈りいたします。

長野大学 教授 山西敏博

ELPA20 周年、誠におめでとうございます。
20 年間の積み重ねが、日本の英語教育界をよりよくしていきますね。
昨年度は講座のご依頼を、まことにありがとうございました。
今後ともお手伝いをさせていただきます。
喜んで引き受けさせていただきます。

一社 教育デザイン研究所代表理事 / 日本大学文理学部人文学部研究所研究員 吉田和夫

Congratulations on 20 years of ELPA.
We hope that you will continue to promote better practical research and achieve many more results in the future.

関西学院千里国際中部・高等部教諭 米田謙三

20 周年おめでとうございます。すごいですね・・・

ELPA セミナー 2022 報告

2022 年度に開催したセミナーは以下のとおりです。全回 Zoom Webinar/Zoom Meetings で行いました。(全 12 回)
※ ELPA 会員になると ELPA が開催するセミナーへの参加（動画視聴含む）が無料になります。

2022 年 5 月 20 日 27 年間続く英語教師向け実践セミナー「達セミ」って何？～達セミ NEXT 代表 谷口幸夫先生を迎えて～

1995 年に当時都立国分寺高校勤務の谷口幸夫先生の呼びかけで始まった、英語教員の自主研修会「英語教育の達人セミナー」は今年で 27 周年を迎えます。北海道から沖縄まで対面で行っていたセミナーは、現在オンラインも併用し「達セミ Hybrid」として全国で開催されています。今回は「達セミ NEXT」主催の谷口幸夫先生を講師にお迎えして、今後の英語教育セミナー・研修のあり方や「達セミ」への思いをお聞きしました。
【講師】谷口幸夫（達セミ NEXT 代表）
【パートナー】白戸治久（ELPA 事務局長）

2022 年 6 月 11 日 学生主体のプロジェクト型学習をディレクションする～近大『ゾンビ英単語』制作秘話～

「ゾンビ映画のような物語・セリフ」を題材にして英語を学習していくという、近大『ゾンビ研究所』研究員である学生のアイデアが取り入れられた書籍『ゾンビ英単語』が刊行されました。その制作過程を例として、産学連携を企業や NPO としてみたい人たちにに向けた企画・運営の手法と、実際の活動の報告をしました。
【講師】岡田健志（株式会社 増進堂・受験研究社主任研究員、ELPA アドバイザー）

2022 年 7 月 2 日 「新・読解カトレーニング 日本語リーディングリテラシー錬成 BOOK」発刊記念 日本語リーディングリテラシーテスト これまでとこれから

2020 年から発売開始した「日本語リーディングリテラシーテスト」は、現代社会において求められるリーディングリテラシーを「知識・情報・データ読取・論理・文脈・内容把握」の 6 つの観点から測定評価し、その修得やスキルアップへの道筋を示すテストです。そのテストに準拠した、「新・読解力」を錬成する教材「新・読解カトレーニング 日本語リーディングリテラシー錬成 BOOK」もいよいよ発刊となりました。実際に受験していただいている高等学校の先生からもご報告いただきました。
【講師】難波俊樹（東京女子学園中学校・高等学校教諭、ELPA アドバイザー）／堤晋介（日本語リーディングリテラシー研究会フェロー、ELPA アドバイザー）／永田麗（日本語リーディングリテラシー研究会代表・河合塾ほか国語科講師、ELPA アドバイザー）／久保裕介（小松大谷高等学校教諭）

2022 年 8 月 11 日 GIGA スクール時代「だからこそ」の基本に立ち返る英語科指導法とは～理論と実践、評価まで～

新しい指導要領が施行され、小学校での英語教育が始まり、中学校、高等学校でもコミュニケーション重視の英語教育が推進されています。また GIGA スクール構想によって教育 ICT 活用も期待され続けていますが、実態としては、それらの教育活動の成果を測るテストは従来からあまり変わっておらず、実践と評価のギャップに悩まれている指導者も多いと聞きます。
本セミナーでは、高等学校での指導経験が豊富な札幌大学教授・今井康人先生を講師に迎え「多種多様な教育実践が叫ばれている今こそ、基礎基本に立ち戻る」を軸に、英語教育の不易の部分みなさんと共に考えました。また、どのようなテストングをしたらよいか、教員自身が客観視して評価する方法はないのか、なども話題としました。
【講師】今井康人（ELPA アドバイザー／38 年間にわたり 5 つの高等学校に勤務後、札幌大学教授に就任。教鞭を執り 40 年目）

2022 年 9 月 10 日 英語 4 技能プレイスメントテスト E-Vision は何を測るテストなのか

新年度の英語クラス分けのために、スピーキングテスト、ライティングテストは具体的にどのような能力を測つ



て、どのようにグループ分けを行うのが適切でしょうか。現在、英語 4 技能プレイスメントテスト E-Vision を開発中の先生方と考えました。英語 4 技能プレイスメントテスト E-Vision は、リスニング・リーディングは 2024 年 3 月、スピーキング・ライティングは 2024 年 9 月リリース予定です。

【講師】根岸雅史（東京外国語大学大学院教授、ELPA 理事長）／羽山恵（獨協大学准教授、ELPA 理事）／中野達也（駒沢女子大学教授、ELPA 副理事長）

2022 年 10 月 8 日 学修成果の可視化とキャリア支援の試みー外部試験の利用と課題ー

今、学校教育は教育における PDCA サイクルの取組の中で、学習し修得した成果をどのように可視化し、さらには実社会で要求される力とどう結びつけていくかという課題に向き合っています。学修成果の測定・評価では、標準化された外部試験の利用がひとつの方法として考えられます。また、教育の現場で重視され始めた、アクティブラーニング・問題解決型学習の動向も検討しながら行う必要があります。

ELPA が提供する、ジェネラルなテーマを扱う英語プレイスメントテスト（ELCA）、日本語力・論理的思考力に焦点を当てた日本語リーディングリテラシーテスト（JRLT）を導入し、学修成果の可視化とキャリア支援の試みを模索している、清泉女学院短期大学のおふたりの先生にお話をうかがいました。

【講師】中村洋一（清泉女学院短期大学教授、ELPA アドバイザー）／藪田由己子（清泉女学院短期大学教授）

2022 年 10 月 28 日 探究活動へつなげるリーディングリテラシー力のポイント

今年度より高等学校で進められている探究活動ですが、先行している学校では教育 ICT や外部人材を活用した手法も試され、多くの事例が蓄積されてきています。しかし、しばしば「探究」という言葉や手法が先行し、「生徒・学生に思考させ、深く理解する」という、本来の目的が欠けてしまっているケースもあるのではないのでしょうか。

今回のセミナーでは、効果的な探究活動のポイントや、そのためのリーディングリテラシー力の重要性、探究活動に利用できるコンテンツや評価ツールをどのように活用していくか、活用事例も交えながらご紹介しました。

【講師】難波俊樹（東京女子学園中学校・高等学校教諭、ELPA アドバイザー）

2022 年 11 月 23 日 「探求」から【探究】へーCLIL（内容言語統合型学習）を通した、アクティブ・ラーニング

「クリティカルシンキング・クリティカルリーディング」をキーワードに、スライドを使った英語でのデモンストレーション授業を大学で指導されている山西先生のお話をうかがいます。デモンストレーション授業は主要 5 教科から副教科へ、学部内での発表から学部間での発表・交流へと発展していきます。「英語プラスアルファの多言語」で「教科を超えた」アクティブ・ラーニングの実践に触れる絶好の機会となりました。

【講師】山西敏博（長野大学教授、童謡メンタルセラピスト、英語 4 択マークテスト瞬時解法講師、日本列島徒歩縦断実践者、ELPA アドバイザー）

2022 年 12 月 17 日 英語の力をどう評価するか？～テクノロジーの発達を見据えて～

新教育課程が始まり、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の 3 つの学習評価の観点はどう解釈してどうアプローチするか、また GIGA スクール構想による 1 人 1 台端末環境をどう活用するか、先生方は学校現場で日々知恵を絞っていることでしょう。

デジタルデバイスは学校の定期試験でどう利用されるべきなのか、また民間の英語資格・検定試験でどう利用されていくのか、その際、評価はどのようにすべきなのか、テクノロジーの発達とともに課題も次々生まれています。英語教育が専門の講師と参加のみなさんと、日頃の授業での実践、疑問を率直に出し合う機会とすべく企画しました。

【講師】工藤洋路（玉川大学教授、ELPA 理事）

2023 年 2 月 11 日 深い学びを育成・評価するクリティカル・リテラシー～問いが生まれる学びとは～

巷間聞かれる言葉として「クリティカル・シンキング」がありますが、最近特に言語教育の中で「クリティカル・リーディング」が言われ始めています。「クリティカル・リーディング」に必要なのが本セミナーのテーマである

「クリティカル・リテラシー」です。「クリティカル・リテラシー」とは、批判性、創造性をもって言語をメディアとして運用するコア能力と言えます。リテラシーをきたえることで、自覚的に問いが立てられる人材育成に寄与することができるのではないのでしょうか。教育工学、英語教育学が専門の講師にお話を聞きました。

【講師】清水公男（文京学院大学教授、ELPA アドバイザー）

2023 年 3 月 10 日 「学術リテラシー」の基礎となる「リーディングリテラシー」力の育成ー大学入学前教育から初年次教育に向けての取り組みー

高校までに学んだことを大学生としての視点から学修するために必要な基盤能力、大学生として「自ら課題を見つけ、内容を理解・思考・判断してまとめ、他者へ伝える」力が「学術リテラシー」です。そして高校卒業・大学入学時にまず身につけたいのは、学術リテラシーへの橋渡しとなる「リーディングリテラシー」力です。「リーディングリテラシー」力は、文の意図を読み取り、著者の観点に応じて理解を深めるための必須能力です。大学での学修が進み学術情報を知るようになれば、より精緻に学術情報と結び付けられるようになり「学術リテラシー」を育む基礎となります。

「リーディングリテラシー」力を養うために最適な「日本語リーディングリテラシーテスト」と関連教材「新・読解カトレニング 日本語リーディングリテラシー 錬成 BOOK」のセットをご紹介しました。

【講師】永田麗（リーディングリテラシー研究会代表・河合塾ほか国語科講師、ELPA アドバイザー）／堤晋介（リーディングリテラシー研究会フェロー、算数数学・SPI 非言語分野オンライン学習講師、ELPA アドバイザー）／難波俊樹（東京富士大学非常勤講師、東京女子学園中学校・高等学校先端学習部長、ELPA アドバイザー）

2023 年 3 月 22 日 ニューノーマル時代における大学入試と入学前教育

インターネット環境、e-learning、1 人 1 台端末の普及により、オンライン学習は当たり前のものとなりつつあります。一方で大学入学試験・資格試験等ハイスティクステストをオンラインで行う際、ネックとなるのが不正行為防止の難しさです。

今回のセミナーは次世代コンピュータによる外国語教育を専門とする株式会社空間概念研究所と共催とし、オンラインでハイスティクステストを実施するために必要な要件、技術をご紹介しました。技術の発展に伴って英語技能の測定方法はどのように変化するべきかというご提案もしました。

【講師】楊 達（ヨウ タツシ）（早稲田大学文学学術院文学部教授・中国語教育総合研究所所長）／長柄智之（株式会社空間概念研究所・営業責任者）／白戸治久（ELPA 事務局長）

※講師の肩書きは登壇時のものです。

【ELPA 英語教育チャンネル】

<https://www.youtube.com/channel/UCkQro2qd3BiZLYqSJxv7ACg/videos>

上記サイトにて、オンラインセミナーの動画を公開しています。ぜひご覧ください。各セミナーとも冒頭 10 分抜粋版です。



No. 09

ELPA Vision

2023 年 8 月 15 日発行

発行人：根岸雅史 ロゴ・フォーマットデザイン：ユーフォーブックス

表紙写真：北澤尚子（みくりが池・富山県）

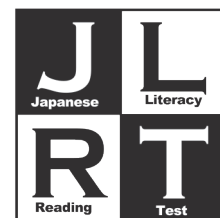
発行所：特定非営利活動法人（NPO）英語運用能力評価協会（ELPA）

〒162-0806 東京都新宿区榎町 39-3 神楽坂法曹ビル 501

Tel: 03-3528-9891 Fax: 03-3528-9892

日本語話者のみなさん、「英語」の前に「日本語」で書かれた文章が正しく読み解けていますか？

読解力は情報化社会に適応するために必要な総合スキルです。誤解や取り違えをすることなく相手の真意をとらえ、文脈の中での言葉の使われ方に注意して読み解くことが肝要です。言葉を前後の文脈から切り離しても正しい内容は理解できません。正確な内容理解に必要なのは、周囲の記述との関係性に注意をはらい、かつ異なる情報を組み合わせたうえで、「語意」や「文意」を把握することです。本書は20年間英語能力を評価してきたNPOが日本語文章を読み解くスキルを鍛えるために開発した、トレーニングテキストです。



新・読解カトレーニング 日本語リーディングリテラシー 錬成 BOOK

日本語リーディングリテラシー研究会編／114 ページ／定価 1320 円（税込）／2022 年 10 月 10 日発行

●こんな方におすすめ●

「国語」の現代文や「数学」などの文章題の得点が安定しないで困っている中学生、数学・理科、地歴・公民など教科内容を正しく理解して克服したい高校生、日本語で書かれたテキスト特に論文を正しく理解したい大学生、日々大量に送られてくる情報文や図表を正しく理解したい社会人

内容見本

2. 情報

1：読解における情報の重要性

→必要な情報を選択したり抽出したりできるようになる。

1：日本語で書かれた一般的な文章の読み取りに際しては、情報が正しく把握できるかが重要です。論説文ではなく、実際の情報伝達に使われる文章は、しばしば書き手の表現力に問題がある場合があります。また書き手が考える主題と読み手が必要とする情報が異なる場合もあります。その際、必要な情報を選択したり抽出したりできるかということがポイントです。

さらに、問われていることに関する直接の記述がない場合、探しても情報がないと判断してしまうことも少なくないでしょう。間接的な情報しかなくてもそれを積み上げて、必要な情報にたどり着けるようになることが、読解力アップの秘訣です。

4. 論理

1：命題・ベン図

→解法の戦略＝文章を命題としてとらえる

1：文章を命題としてとらえる

文章を命題としてとらえると、論理的構造が把握しやすくなります。命題というのは「〇〇であるならば△△である」という形です。

〈例〉

大阪人は関西人だ ▶ 大阪人である→関西人である

4の倍数は2の倍数だ ▶ 4の倍数である→2の倍数である

犯人はこの中にいる ▶ 犯人である→この中にいる

5. 分脈

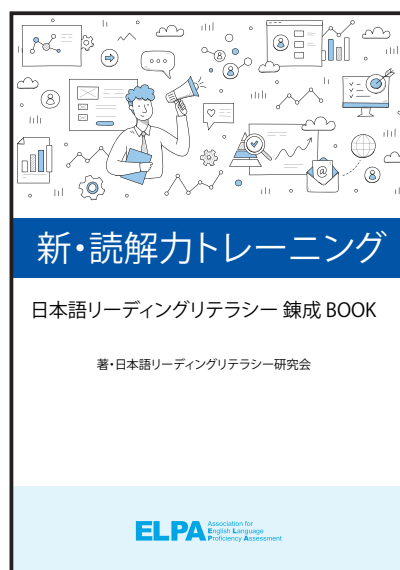
1：そもそも「文脈」とは？

→解法の戦略＝「速読・速解」がキーワード！

1：「文脈」（＝コンテキスト）とは

→語と語、あるいは文と文の間の「意味の続きぐあい」と、それによってある語や文に対して働く「意味を規定する力」をいう。比喩的に、「すじみち」や「背景」などを指して使われる。

（例文）アメが降ってきたよ。
「アメ＝雨」 （前文 A） 天気予報の通りだ！
「アメ＝飴」 （前文 B） さすがお菓子の国だ！



英語速読アプリ Soc Dok

Soc Dok は Web サイト上で動作する、新しい英語速読練習アプリです。英検 3 級レベルの問題の英文をひととおり読んで理解度チェックの正誤問題に答えると、自動的に WPM スコアが計算されます。授業の帯活動、講習、自学自習にお役立てください。

1 アカウント 660 円（税別） 三省堂版／東京書籍版／開隆堂版